

## 石畳 歩道を拡幅し、歩行者と自転車がシェアする空間に

参加者

歩道の広さに大満足！  
中学生も大喜び！



縁石と白線の仕上げの違い

小野寺

歩道が3mになり、現状に対してかなり広がる。現在は歩道と車道の間に段差があり、自転車が落ちる心配をしていたと思うが、セミフラットに変更したことにより、縁石があるため、車道に落ちる心配はない。また、縁石が見えやすいように石の仕上げを荒っぽい仕上げにしており、車道側から見ても縁石がよく見えると思う。車道の舗装は1工区と同じ石畳の仕上げだが、白線だけは白御影石で、勢溜付近の坂道部と同じでわざと荒い仕上げにしており、夜間や雨でもよく見えるようにしている。

参加者

石の色を自転車が通行するところと歩行者が通行するところで分けてはどうか。

橋本

自転車の走行空間を明示することは色々な町の中でやっているが、今回の場合、1工区がシェアド・スペースのため、橋の区間だけ区別するようになってしまう。また、自転車と歩行者の交通量を考えると、通学時間帯は自転車がたくさん通っているが、昼間は歩いている観光客が多い。歩行者・自転車の空間を明確に分けるより、実態や時間帯によって使い分けてもらうほうが良いと思う。今回は、自転車も歩行者も通行できる区間として3mに拡幅し、自転車も通行しやすくなる。むしろ、広くなりすぎて自転車のスピードが上がり過ぎないか懸念しており、その先に交差点もあるため、自転車はゆっくり通ってもらいたい。

桑子

今後は、宇迦橋を2人でおしゃべりしながら並んで歩けるようになる。今度の自転車歩行者道では、歩行者と自転車がお互いに気をつけながらシェアすることが大事だと思う。

## まとめ 神門通りにしかないオリジナリティのあるデザイン

参加者

現在の高欄は白くて太く重厚感があり、これから出雲大社があるという雰囲気があった。今回決まった鉄の高欄は、軽くてモダンで味わい深く、それでいて新しい。出雲大社の神門通りのオリジナリティがあって良いと思った。



意見交換の様子

桑子

これからのまちづくりの主体となる若者から、素晴らしい感想をいただいた。ありがとうございます。

## 2017年度土木学会デザイン賞で最優秀賞を受賞しました！

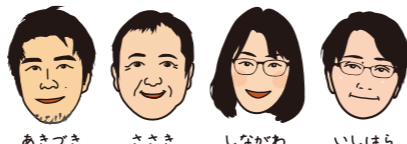
神門通りが11月16日に、土木学会デザイン賞の最優秀賞を受賞しました。本賞は、公益社団法人土木学会の景観・デザイン委員会が主催する、優れた土木構造物・空間を表彰するものです。

歩行者と車両の共存を図るデザイン、街灯の素材感や統一されたデザイン、限られた寸法の中でマツの植栽基盤を広げた配慮、勢溜の鳥居前の坂道部スロープと階段の調和など、細やかな配慮が高く評価されました。

詳しい内容は、土木学会デザイン賞ホームページをご覧ください。 <http://design-prize.sakura.ne.jp/>

## 出雲県土整備事務所 都市整備課 からのメッセージ

今回、石畳歩道と鉄高欄の原寸模型を見ていただきました。実物を見て、触ることで実体験としてイメージしていただけたと思います。歩道の広さについても十分満足との声をいただきました。安全性にも配慮しつつ、高欄の明かりで神門通りの新たな魅力を演出します。最終デザインは鉄高欄になりましたが、次にデザインされたものが実際に現場に設置され、周りの景観に取り込まれることでデザインとして成立すると思っています。そのためには地域のみなさまに受け入れられるということも必要です。今後、長く愛される宇迦橋の一つの要素として、ワークショップでの議論も含め大事にしていっていただければと思います。(秋)



島根県出雲県土整備事務所 都市整備課 〒693-8511 島根県出雲市大津町1139 TEL:0853-30-5667 FAX:0853-30-5675

ニュースレター

# 5号

平成29年12月20日

# 神門通り線2工区ワークショップ

～ 祈りと出会いの道へ。出雲の国のかけ橋、新しい宇迦橋をわたる。～

## 第4回 ワークショップ開催 宇迦橋の景観について考える③ 最終デザイン案

平成29年11月8日(水)に第4回ワークショップを開催し、約60名の方にご参加いただきました。今回は高欄の最終デザイン案を提示し、原寸の模型を見ながら石畳の表面仕上げや、照明の明るさ、明かりの広がる範囲などを確認し、参加者間で議論を交わしました。

- |   |  |   |  |     |
|---|--|---|--|-----|
| 1   | 2  | 3   | 4  | 5   |
| 石畳と橋の構造   | 高欄の最終デザイン  | 見直し・模型の確認   | 意見交換   | まとめ |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>出雲県土整備事務所</li> <li>景観アドバイザー小野寺氏</li> <li>交通アドバイザー橋本教授</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>出雲県土整備事務所</li> <li>景観アドバイザー南雲氏</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>景観アドバイザー小野寺氏</li> <li>景観アドバイザー南雲氏</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>総合コーディネーター 桑子氏</li> </ul> |     |



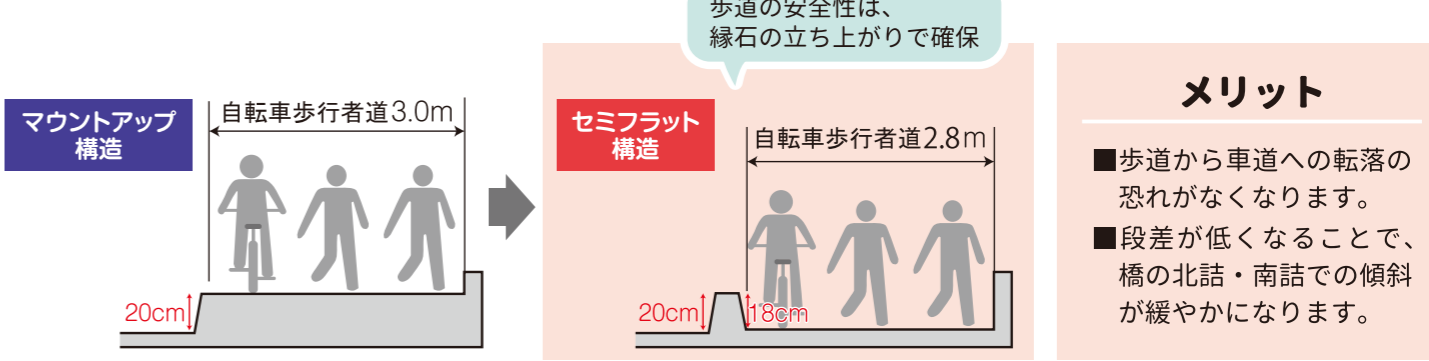
## 石畳と橋の構造

**橋梁種類が決定しました！**

橋種：コンクリート道路橋（PC2径間中空床版橋） 橋長：68m 橋面舗装：石畳舗装  
幅員：全幅 12.0m 車道 6.0m 歩道 3.0m(両側)

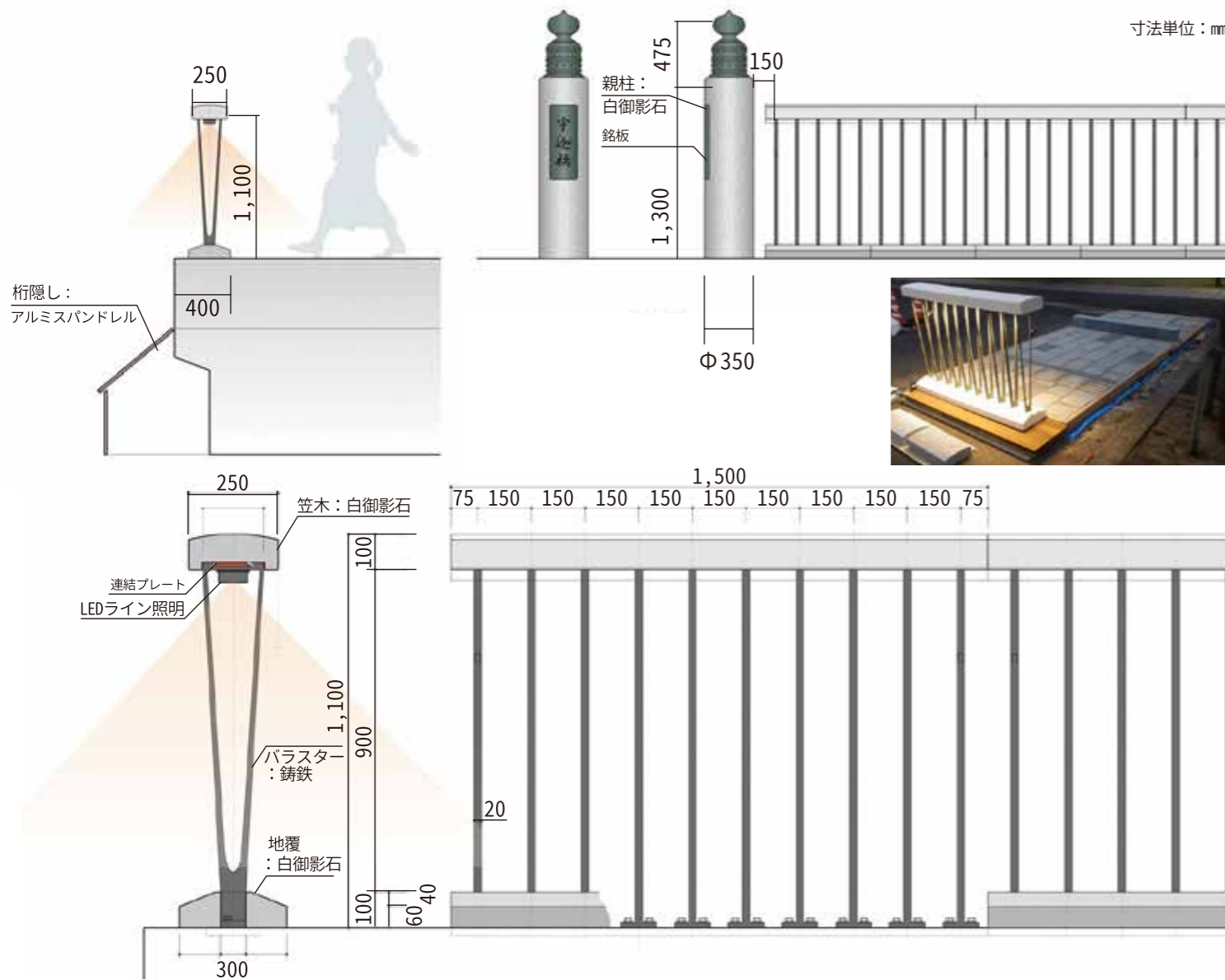
**宇迦橋の歩道形式を変更します！**

○第1回ワークショップでは、歩道を現在の宇迦橋と同じように段差を設けるマウントアップ構造とすることを報告していました。  
○しかし、大社中学校出前講座などで「段差が高くて怖い」「自転車が落ちそうで怖い」といった意見があがったことから、交通検討部会で議論を行い、歩道の高さを下げ、縁石のみ立ち上げる**セミフラット構造**に変更することになりました。





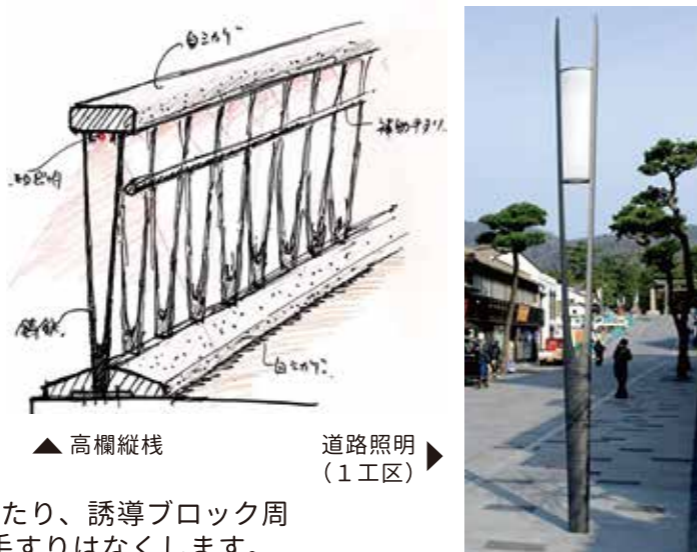
# 高欄デザインが決定しました！ 鋳鉄高欄（鋳鉄縦棧+石笠木）



## 鋳鉄高欄＜デザインにあたり配慮・検討した事項＞

### ■ 神門通り 1工区とのデザインの共通性

和のテイスト・素材の共通性（鋳鉄）      オリジナリティのあるデザイン      松葉を連想させるデザイン



### ■ 中学生の意見の採用

7月に行った大社中学校出前講座にて、照明について「1工区と統一感を持たせてほしい」や「LEDを使ってほしい」といったご意見が上がり、今回採用しています。

### ■ 補助手すりをなくします

原寸模型実験の結果、高欄の明かりが補助手すりにあたり、誘導ブロック周辺に影ができてしまうことがわかりましたので、補助手すりはなくします。

※笠木を手すりとしてご利用いただけます。

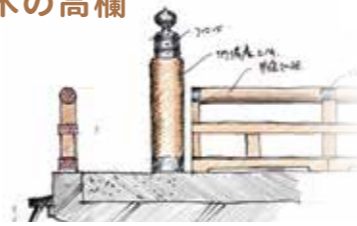
### ■ 鋳鉄の耐久性の確保

第3回ワークショップにて、鋳鉄の錆について指摘がありましたが、メッキ処理や仕上塗装をきちんと行うことで、長期の使用に耐えられるよう対応します。

# 最終デザイン決定までの流れ

## 3つのデザイン案

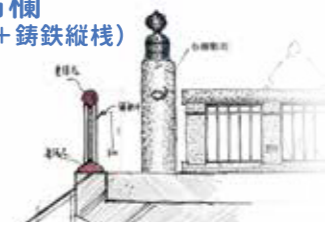
### ① 木の高欄



- 木橋であった初代宇迦橋の精神を受け継いだデザイン
- 優しく温かい素材
- 傷みが早い

### ② 石の高欄

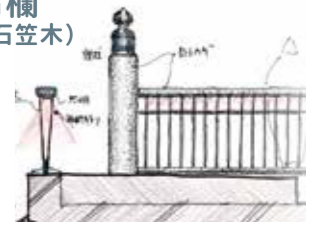
（御影石+鋳鉄縦棧）



- 石らしい作りを強調したデザイン
- 耐久性が高い
- 明かりは柱に内蔵したフットライト

### ③ 鋳鉄の高欄

（鋳鉄縦棧+石笠木）



- 神門通りの連続性や、大鳥居と調和したシンプルなデザイン
- 手すりの下に照明をつけることで、大鳥居に向かって一直線の明かりを表現

第3回ワークショップの意見交換では、②石の高欄 と ③鋳鉄の高欄 に意見が集中  
いただいた意見や出前講座のアンケート回答も参考にして事務局にて検討

## 「和の質感を持つ本物の素材を活かしたデザイン」

選考にあたり、以下の項目に着目し、最終デザインには「鋳鉄高欄」がふさわしいと判断しました。

### ■ 1工区との連続性

1工区のコンセプトを踏襲し、素材や形状、明かりの雰囲気など連続性に配慮したデザイン

### ■ 橋全体のバランス

橋梁種類が薄い床版のコンクリート道路橋となるため、床版と高欄とを合わせた橋全体のバランス

### ■ 本物の素材

単体の部材として成立するかどうか  
※例えば石高欄では石の中に芯となる別の材料（鋼材等）が必要になる

### ■ 大鳥居を引き立たせるデザイン

大鳥居が主役となるデザイン

### ■ 神門通りにしかないオリジナリティ

# 原寸模型を見ながら意見交換を行いました

## 全体デザイン ▶ 大鳥居・1工区と調和したシンプルなデザイン

参加者

松葉の形で1工区との連続性があり、シンプルで非常に良いデザインだと思う。

良い雰囲気です、恋人と歩きたくなりました！縁結びの地なので、できあがったらSNSなどで話題になって、人が沢山集まるような橋になるのではないかと思います。



原寸模型の見学

## 高欄 ▶ 安全性への配慮を

参加者

高欄のすきまから、小さい子どもが落ちそうである。安全性は大丈夫か。

南雲

柱の線が細いため、スケスケとした感じが、恐く感じるのかもしれない。柱の間隔を15cm以内になければならないという基準があり、その基準に従い計画している。

## 照明 ▶ 光の広がり方はバランスがポイント

参加者

縁石の方が暗いのが気になる。自転車が走行する車道側にも明かりがあった方がいいのではないかと。

橋本

今は誘導ブロックまでは明るくするようにしているが、もう少し広げて縁石のあたりまで明るくすることは可能である。一方で、そうした場合に車のドライバーの視点で見ると明るくなりすぎてしまう可能性もある。また、自転車の場合はライトを付けることも可能なので、縁石が全く見えないということはありません。人は明かりのある方を通行するということもあり、総合的に検討する必要があります。



光の広がり方の確認